

2 校内研修計画

(1) 研究教科 国語科

(2) 研究主題 表現力を育てる国語科指導 ～読書活動と関わりながら 自分の考えや思いを伝える授業づくりを通して～

(3) 主題設定の理由

ア 学習指導要領から

「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 国語編」には、小学校国語科の目標として、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成することを目指す」としている。そして、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の各指導事項について、育成を目指す資質・能力が明確になるよう語彙指導、情報の扱い方、考えの形成、我が国の言語文化に関する指導などについて改善・充実を図っている。

中央教育審議会答申（平成 28 年 12 月）で「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いが関連している」との指摘があった。また、「教科書の文章を読み解けていないとの調査結果もあり、文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である。」と述べられている。

語彙は全ての教科等における資質、能力の育成や学習の基盤となる言語能力を支える重要な要素である。語彙を豊かにするために、学習の中で様々な語句に触れ、日常生活の中でも使いこなせる語句を増やせるよう、学年ごとに指導事項を示している。

そして、全ての領域で、「考えの形成」に関する指導事項を位置づけ、自分の考えを形成する学習過程を重視している。

また、「読書は、国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動のひとつである。」という答申を受け、自ら進んで読書をし、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を養うために、国語科の学習が読書活動に結び付くよう、発達の段階に応じて、系統的に指導することが求められている。本校では、令和 6 年度より佐原中央図書館と連携しながら読書活動を行ってきた。これは、小規模校の本校にとって、読書を通じて多様な考えに触れたり、様々な角度から物事を考えたりするきっかけとなった。

イ 学校教育目標から

心豊かでたくましく生きる児童の育成 ～笑顔いっぱい 元気いっぱい 友達いっぱい～
知・徳・体の視点から「生きる力」を育てる 進んであいさつ・そうじ・べんきょう

＜学校がめざす児童像＞	＜国語科でめざす児童像＞
○ 心豊かでたくましく生きる児童の育成	○ 国語に対する関心を高め、学ぶ楽しさを味わいながら主体的に学び合う児童の育成
・ 自分や友達を大切にする優しい子ども	・ 友達のよいところを認め、互いの考えを伝え合う子ども
・ よく考え、進んで学び合う子ども	・ 楽しんで読書をし、国語を大切にしながら学び続ける子ども
・ 力いっぱい運動し、元気に遊ぶ子ども	・ めあてに向かって積極的に取り組む子ども

ウ 児童の実態から

本校は、全校児童42名の小規模校である。由緒ある香取神宮境内の隣に位置し、緑豊かな環境で生活している。児童は素直で明るく元気であり、学校の決まりをよく守り、多くの児童が学校生活を楽しく送っている。学習面に対しては、学習内容の定着や学び方・学習意欲の面で個人差が大きく見られ、高学年になるにしたがってその傾向が顕著に表れている。令和6年度の千葉県標準学力検査の結果から見ると、主体的に学習に取り組む態度は全学級が県の平均を超えている。知識・技能に関しても4学級が県平均を超えた。これは、読書活動や音読活動、文章の視写や国語辞典を活用したクイズ作り、言葉遊びなど、各学年の日常的な取り組みの成果である。

一方、思考・判断・表現に関しては、全体として県平均はおおよそ超えているものの、63.5%前後の正答率となり、低い傾向にある。これは学年によって違いはあるが、「読むこと」や「書くこと」「話すこと・聞くこと」など、表現の力での課題が起因すると考えられる。さらに、授業中や生活の様子から以下のような特徴が見られる。

- ① 一見、楽しそうに話をしているが、一方的に話をしている場合が多く、言葉のキャッチボールが成立しない。
- ② ICTの発達により言葉や情報はあふれているが、言葉の意味が曖昧であり知っている言葉に偏りがある。(語彙が少ない)
- ③ 音読がスムーズにできない。時間がかかったり読み間違いが多かったりする。
- ④ 授業中、発表する児童が限られてしまい、言葉を発することなく終わってしまう。

これらの実態から、児童が読書活動を通じていろいろな語彙に触れ、文章に接する楽しさを味わわせていきたい。そして、多様な語句やその働きや使い方を知り、それらを使って自分の考えや思いを伝えられるようにするための手立てを探っていきたい。また、児童が「自分の思いを伝えたい。自分の考えを知らせたい。」という意欲の向上につながるよう、本テーマを設定した。

(4) 研究目標

読書活動を充実させ、様々な言葉や文章への関心を高めることで、話したり書いたりしようとする意欲が高まり、表現への意欲につながることを、授業実践を通じて明らかにしていく。

(5) 研究仮説

- 読書活動を充実させることで、様々な言葉や文章への関心が高まり、表現しようとする意欲につながるであろう。

(6) 研究内容

【読書活動とは】

読書活動は子どもが言葉を学び、感性をみがき表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていくうえで欠くことのできないものであるとして、子どもが自主的な読書活動を行うことができるように積極的に環境を整えること。(平成13年12月に子どもの読書活動推進に関する法律が公布・施行)

この法律に基づき、政府は「子どもの読書活動の推進に関する基本計画」を策定し、

- 子どもが読書に親しむ機会の提供と諸条件の整備
- 家庭、地域、学校を通じた社会全体での推進
- 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及を推進する としている。

その中の学校（小・中学校）における取り組み事例については、

- 各学校に専任の司書教諭・学校図書館司書の配置
- 司書教諭・学校図書館司書の研修の推進
- 教職員（司書教諭・学校図書館司書以外）の研修の実施
- 学校図書館の図書の充実
- 学校図書館施設の整備
- 学校図書館における学習支援機能の整備
- 学級文庫の整備
- 「朝の読書」の実施や「読み語り」等読書活動の充実
- 児童・生徒による図書委員会活動の活性化
- 市町村立図書館との連携
- 保護者や地域の人々から学校図書館支援ボランティアを募り、読み語り等を行うことなど、地域との連携
- 読書の啓発活動

が挙げられている。本校では、（８）朝の読書活動の充実と（１０）市立図書館との連携を中心に取り組んでいく。

【読書活動の充実】

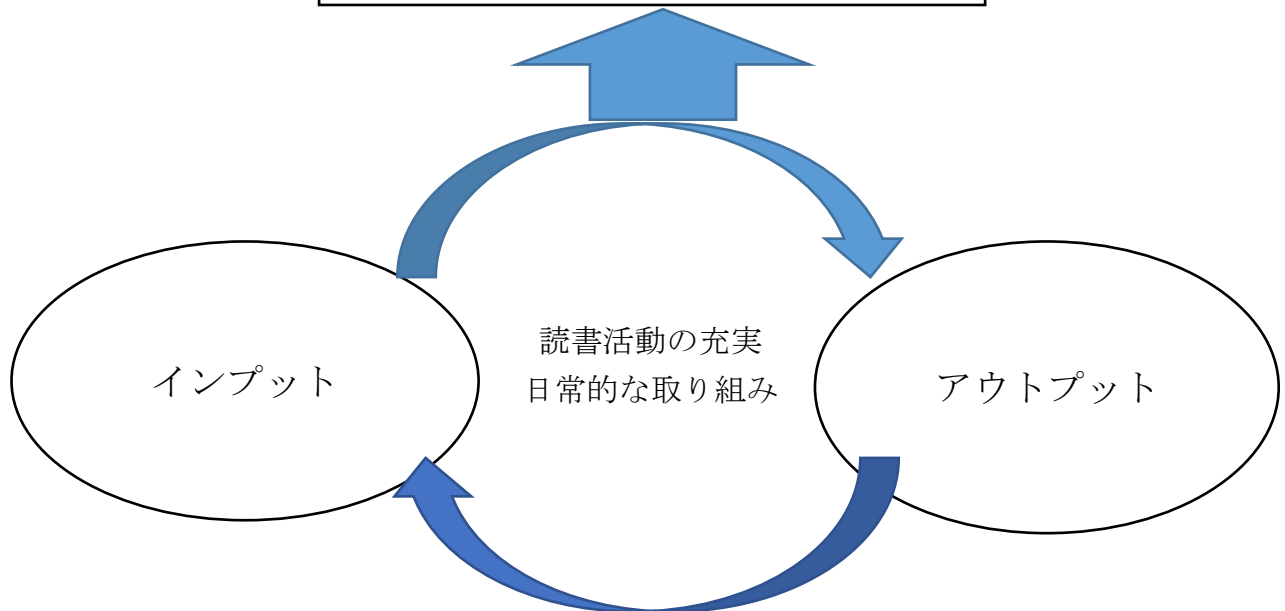
- ① 朝の読書活動の充実
 - ・読書タイムを帯で設ける（毎朝１０分間）
 - ・読書カードの作成（学年の発達段階に応じて）
 - ・職員による「読み聞かせ」を行う（毎月１回）
- ② 佐原中央図書館との連携
 - ・図書の充実 ブックリストの作成 並行読書
 - ・読書カードの工夫（この本を読みましょう）
 - ・児童が作成したポップや帯を佐原中央図書館へ掲示

【日常的な取り組みの継続】

- ① 委員会活動の工夫
 - ・佐原中央図書館と連携し、図書室の環境づくりを行う
 - ・図書祭りを計画し、読書クイズや本の紹介、スタンプラリーなどを行う
- ② 各学年による日常的な取り組みの工夫
 - ・音読 辞書引き活動 暗唱ミッション 視写 聴写 日記 言葉遊びなど

学習意欲の向上

・読解力 ・表現力 ・語彙力



☆朝読書の充実

毎朝 8:00～8:10 は読書活動を行う。みんな静かに読書に取り組む。各学年の発達段階にあった読書カードを作成し、活用する。

☆辞書引き活動

いつも手元に辞書を置き、辞書を引く習慣をつける。

☆読書リストの作成

佐原中央図書館と連携し、ブックリストを作成する。

☆委員会活動の工夫

佐原中央図書館と連携し、図書室の環境づくりを工夫する。図書祭りを計画し、読書クイズや本の紹介、スタンプラリーなどを行う。

☆子ども新聞の活用

天声子ども語の視写、題名を付ける活動。

☆音読活動の充実

毎時間（国語科）、音読活動に取り組む。5分間読み（一人で・二人組で丸読み）、速読練習、ICTの活用。

☆辞書クイズ・言葉クイズ

辞書の中から言葉クイズを出す。質問をして、カードに書かれているものを当てる。

☆暗唱ミッション

毎月、全校で暗唱ミッションに取り組む。詩、短歌、俳句、文学等を覚え、校長先生に暗唱したものを聞いていただく。

☆交流の工夫

異学年、全校、近隣校での交流。佐原中央図書館との交流、POP コンテスト

☆委員会活動の工夫

図書祭りを計画し、読書クイズや本の紹介、スタンプラリーなどを行う。

(7) 研究計画

〔前期〕 国語科授業研究 (9月)

〔後期〕 公開研究会 (11月)

特別支援学級授業研究会 すぎのこ学級、ひまわり学級 (1月)

(8) 研究組織

